

安全な糖尿病薬物治療を行うための「自己管理応援シール」を用いた病院と保険薬局での連携

橋口知香

総合メディカル（株）天神中央店

【背景】

糖尿病患者の血糖コントロール目標は、「熊本宣言 2013」や「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標(2016年)」などにより目標設定の個別化が進んでいる。また、近年糖尿病治療薬の種類が増え、単剤で低血糖を起こす可能性が低い薬も多く登場しており、薬ごとに低血糖に注意すべきリスクが異なる。

これらの指導を適切に行うためのツールとして、2018年に日本糖尿病協会より、糖尿病連携手帳に貼付する「自己管理応援シール」が発行された。

【目的】

今回、病院の糖尿病専門医と、病院・保険薬局の糖尿病療養指導士(CDE)を中心とした連携により、目標 HbA1c 値と薬剤の低血糖リスクに関する患者理解を深めるため、「自己管理応援シール」を用いた取り組みを実施し、現状の課題抽出を行ったので報告する。

【方法】

2018年5月～8月において、済生会福岡総合病院糖尿病内分泌内科を受診し来局した糖尿病患者のうち、同意を得た患者に対して低血糖リスク薬の有無がわかる「おくすり治療中シール」を貼付。CDEの病院薬剤師を介して情報を病院に伝達し、次回診察時に糖尿病専門医と認定看護師が、患者が目指すべき HbA1c 値を記載した「目標 HbA1c 値シール」を貼付した。

また、保険薬局でシールを貼付した患者 104 名と、病院・保険薬局の薬剤師 34 名に対しアンケート調査を実施した。

【結果】

保険薬局では 104 名の患者に「お薬治療中シール」を貼付し、その後、病院では 60 名に「目標 HbA1c 値シール」を貼付することが出来た。

患者アンケートでは、目標 HbA1c 値について、患者が当初認識していた目標値とシールで医師が示した目標値が一致したのは 23%であった。不一致であった患者の 62%は医師が示す値より低い値であると認識していた。また、アンケートより薬剤師は低血糖リスク薬（インスリン製剤・SU 薬・グリニド薬）に重点を置いて指導を行っていた一方、低血糖リスク薬使用患者のうち、低血糖が出やすいと認識した患者は 28%と少なかった。

【考察】

病院と保険薬局の連携によるシール貼付の取り組みで、保険薬局では低血糖リスク薬の指導、病院では目標 HbA1c 値の指導を行う流れを確立することが出来た。

また、患者個々の目標 HbA1c 値を理解する必要性と、低血糖リスク薬使用患者への低血糖に対する認識を改めて指導する必要性が明らかとなった。

今後もこの運用を継続し、正しい患者理解の上での療養指導を実施したい。